NPO 法人コスモ夢舞台

フクロウだより

Vol.１２
第４号

２０２１年　６月　１日

＜事務局から＞

早くも 6 月に入り、紫陽花も見ごろとなってまいりました。皆さまにはお変わりなくお過ごしのこととご推察申し上げます。

新型コロナウイルスの感染対策として期待されるワクチン接種が、5月中旬から予約状況も進み、感染者もようやく下げ止まりから下降局面に入ってきたようです。皆さまはワクチン接種の予約はお済みでしょうか？

さて豊実では、5月 30 日（日）から第 3 回奥阿賀国際アートフェスタがはじまりました。地元の新潟日報は２７日付の朝刊で紹介記事を掲載しています。ありがたいことに、初日のイベントにも大勢の皆さまにお集まりいただきました。

会期中（～6/２７）のストーンサークル会場や縄文アートミュージアム、ワークショップ会場の様子は随時 HP にも掲載してまいります。

どうやら、”縄文”或いは”縄文人”は、これからの生き方やライフスタイルのキイワードになるのではないか、我われはそんな予感すら感じております。

６月１９日（土）に縄文道研究所理事長　加藤春一さんと佐藤さんの「縄文対談」が阿賀町の遊休施設から甦った「縄文アートミュージアム」で開催されます。どんな対談となるやら、ご期待いただきたいと思います。

５月３０日（日）は午後１時半から、ＮＰＯ法人コスモ夢舞台の 2021 年度通常総会が開かれました。2020 年度の事業報告と決算書、2021 年度の活動計画と予算が承認されました。詳しくは添付書類をご確認ください。

「縄文村づくり」については、改めて理事長から熱い決意が語られました。

また、会員の入会と退会についての明文化が承認されました。情報の共有や運営上の疑問点等について意見具申もあり、話し合いにより改善していくことで合意しました。

（森紘一）

＜直近のイベントスケジュール＞

〇第３回「奥阿賀国際アートフェスタ」
　　会期５月３０日（日）～６月２７日（日）

〇「縄文対談」加藤春一さんと佐藤さんの初対面対談（多方面から注目されています）
　　６月１９日（土）１０：００～　縄文アートミュージアム１階サロン

特定非営利活動法人 コスモ夢舞台
２０２１年度通常総会　次第

日　時　　２０２１年５月３０日（日）　午後１時３０分　～

場　所　　阿賀町豊実　「和彩館」

議　題

１　第１号議案　２０２０年度事業報告について

２　第２号議案　２０２０年度収支決算について

３　第３号議案　２０２１年度活動計画について

４　第４号議案　２０２１年度活動予算について

５　第５号議案　会員の入会及び退会規程の制定について

６　第６号議案　「縄文村づくり」構想について

７　その他

第１号議案

２０２０年度　事業報告書（案）

２０２０年４月１日～２０２１年３月３１日

特定非営利活動法人コスモ夢舞台

１　事業の成果

2020 年度は、年頭から新型コロナウイルスの流行により全国的にコロナ禍対応に追われた 1 年であった。当法人においては、交流人口の拡大を目指しイベント開催や外国人等の受け入れなど他地域からの来訪を期待して多くの活動を行っているため県境を越えた移動の自粛、とりわけ海外との交流制限によりウファー等外国からの受け入れが困難になったことは、近年事業推進上大きな存在となってきただけに影響が大きかったが、受入人数は減少したものの国内在住の留学生を中心に来訪者があったことはありがたかった。その中にはその後ことある度に来訪する者も現れ、今後戦力として育つことを期待している。

そのような厳しいコロナ禍のもと東京オリンピックをはじめ全国的にイベント等の開催が相次いで中止や延期になる中、主要事業である第 2 回奥阿賀国際アートフェスタ及び第 18 回里山アート展を開催した。世の中閉塞感が充満する中、当地域は美しい自然、広い会場、澄んだ空気のもと密のおそれがほとんどなく、むしろ安らぎや癒しの場を提供できるのではないかと考え開催に踏み切ったところ例年以上の来場者があり好評であった。

しかし、ふるさとワーキングホリデイ及びスコップボランティアの両事業は、コロナ禍により共催団体等の意向もあり中止することとなった。

２　事業に関する事項

○　特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日	実施場所	受益対象者の範囲および人数
A 第１７回里山アート展	野外展示を中心とした美術展	１０/３ ～ １０/２４	豊実 「いのちの田圃」及び展示館	プロ作家、一般参加者、会員等計３５点 出展者：２４人 （うち、外国人２人） 来場者５００人
B 第２回奥阿賀国際アートフェスタ	外国人と日本人による野外美術展	5/１８ ˆ～ 6/２８	豊実 「昔の田んぼ復活」エリア」 「いのちの田んぼ」エリア	出展数　２９点 外国人　８人　９点 日本人 プロ作家　３人　８点 会員等　９人　１２点 ワークショップ 「いのちの田んぼ」エリア 5/16　5/17　5/18 作品 9 点展示
Ｃウファー等外国人の受け入れ	主に外国人を対象に食事・宿泊を提供し労働の提供を受ける等の事業	通　年	ホスト館ほか	ウファー　１１人 BookingCom　１４人 （2019.7～通算）
Ｄふるさとワーキングホリデー	県外の若者の田舎生活体験受入れ			コロナ禍で中止
Eスコップ・ボランティア	豊実地域除雪作業ボランティアの受入れ			コロナ禍で中止

第２号議案

2020年度収支決算書

特定非営利活動法人コスモ夢舞台

科　　目	当年度	前年度	備　　考
経常収入			
受取会費	399,000	351,000	
正会員会費収入	396,000	348,000	当年度３０人、前年度３人
賛助会員会費収入	3,000	3,000	１人分
受取補助金等	1,064,000	948,680	
受取助成金等	1,064,000	948,680	津川町（森林多面的活用112,000、コロナ対策100,000） 新潟県文化振興財団270,000 EU.・ジャパン100,000 日報美術財団50,000　日本芸術文化振興会132,000 niks地域活性化大賞（奨励賞）50,000 丸山育英会250,000
受取負担金	12,000	39,000	
受取参加費	12,000	39,000	里山アート展参加費　4人
受取寄付金	175,000	193,000	
協賛金収益	175,000	193,000	地元企業等１４社（人）
支援金収益			
雑収益	1,512,000	1,216,001	
受取利息	0	1	
雑収益	1,512,000	1,216,000	預り金等
経常収入計	3,162,000	2,747,681	
経常支出			
事業費			
渉外費			
旅費交通費	480,100	447,510	
通信運搬費	45,238	66,762	
設営・舞台費	620,661	516,092	里山アート展360,221　国際アートフェスタ260,440
消耗品費	162,729	129,030	
事務消耗品費	4,795		
光熱水費			
修繕費	126,432	894,931	
印刷製本費	328,480	288,452	国際アートフェス記録集100,000　里山アート展記録集100,000
燃料費	130,756	117,698	
諸謝金	174,412	285,000	森林保全関係105,000
保険料		9,442	
備品購入費			
雑費	399,900	105,980	丸山育英会対象経費（滞在費）288,000
小計	2,473,503	2,860,897	
管理費			
旅費交通費	8,700		
通信運搬費	281,330	85,275	
消耗品費			
事務消耗品費	31,260	37,095	
修繕費	4,480		
印刷製本費			
保険料	364		
光熱水費	180,509	64,090	
諸謝金			
租税公課			
雑費	97,398	20,665	
小計	604,041	207,125	
経常支出計	3,077,544	3,068,022	
差　　引	84,456	△320,341	
期首正味財産	△1,219,359	△899,018	
期末正味財産	△1,134903	△1,219,359	

第３号議案

２０２１年度　活動計画書（案）

２０２１年４月１日～２０２２年３月３１日

特定非営利活動法人　コスモ夢舞台

新型コロナウイルスは、インド株の変異ウイルスとなって全国的に感染が拡大している。５月中旬からワクチンの集団接種も急速に進められる予定と報じられているが、新たに全国的に緊急事態宣言の発令が懸念されるなど相変わらず不要不急の外出は自粛が求められている。

１年以上にわたるコロナ禍による自粛生活が続きコロナ慣れと見られるような状況も現れてきている中、当地域の美しい景観、広大な空間、きれいな空気のもと時期にはホタルが乱舞するジオトープ等自然の中でアート等に接する機会を提供することは、蜜のおそれもほとんどなく、むしろ安らぎや癒しとなるのではないかと考え、例年どおり事業を実施するとともに、国際アートフェスタのストーンサークル制作を契機に構想した縄文村づくりの実現に向けて取り組む。

１　第３回奥阿賀国際アートフェスタ

会場は「ストーンサークル」会場の阿賀町豊実狐窪（きつねくぼ）と「いのちの田圃」（里山アート展会場）の二カ所となる。

今回の開催テーマ―を「縄文」として、メイン作品としてアート的に作成した「トーンサークル」を特別会場を設置して展示する。会場に隣接する「ミュージアム（阿賀町役場から借り受けた施設）」が隣接しており、こちらにも様々な縄文をテーマとした作品やオブジェが展示される。古代縄文人がどんな思いで、どんな祈りを込めて生活していたかに思いをはせる良い機会になるのでないか。

２　第１８回里山アート展

「アートと生活～そしてリサイクルとアートを考える」をテーマとした野外美術展。会期は１０/２（土）～１０/２３（土）の２２日間。アートを通じて過疎の集落が元気であることを、関東首都圏や県内外にＰＲしていく。コロナ禍におびえることなく、青空の下、開催を迎えたい。

１．「縄文村づくり」構想の取組み

国際アートフェスタの「ストーンサークル」の作成を契機に地域の文化遺産である「縄文」を焦点として地域活性化の切り札にしたいと「縄文村づくり」を構想した。この壮大な構想の実現には、当法人だけでは設置運営面ともに課題が多く関係団体等とも協議して役割分担を明確しながら順次着実に取り組みたい。

４　シンポジウム

地域活性化シンポジウムとして、豊実への移住・定住の支援についても、当法人の取り組む実例を参考に、地元と都市部の皆さんで語り合う。

第4号議案

2021年度　活動予算書（案）

2021年4月1日～2022年3月31日

特定非営利活動法人　コスモ夢舞台

1　収入

科　　目	予算額	内　　訳
会費	399,000	12,000×33人=360,000　3,000×1人=3,000
助成金	611,000	阿賀町森林保全112,000　日本芸術文化振興基金179,000 新潟日報美術財団50,000　新潟県文化振興財団 270,000
協賛金	200,000	企業及び個人
参加費	15,000	アート展出品参加費　3,000×5人＝15,000
雑収入	312,000	寄付金等
合計	1,537,000	

2　支出

科　　目	予算額	内　　訳
里山アート展	560,000	設営費355,000、旅費等56,000、ポスター等34,000, 通信15,000、図録100,000
国際アートフェスタ	753,000	設営費350,000　ポスター等作成費60,000　図録100,000 交通費等（作家等）40,000　宿泊費（作家、外国人）203,000
交流人口拡大推進	62,000	ワーキングホリディ37,000　スコップ・ボランティア25,000
森林保全事業	112,000	謝金等300,000、消耗費200,000
事務局費	50,000	会報等印刷・送料、消耗品費
合計	1,537,000	

第５号議案

会員の入会及び退会取扱い規程（案）

（趣旨）

第１条　会員の入会及び退会の取扱いについては、定款に定めのあるほかこの規定に定めるところによる。

（入会手続き）

第２条　入会しようとする者は、入会申込書の提出にあわせ当該年度の会費を納入しなければならない。

２　入会年度の会費の額は、入会しようとする月からその年度 3 月までの月数に千円を乗じた額とする。

（会員資格取得時期）

第３条　前条第１項の双方が受理されたとき会員資格を取得したものとする。

(会費未納の取扱い)

第４条　定款第９条第３号の規定により会員資格を喪失したとみなされたときは、会員名簿から削除する。

２　会員を喪失したとみなされる者が、その後、未納の会費を納めたときは会員の資格を回復し、会員名簿に登載する。

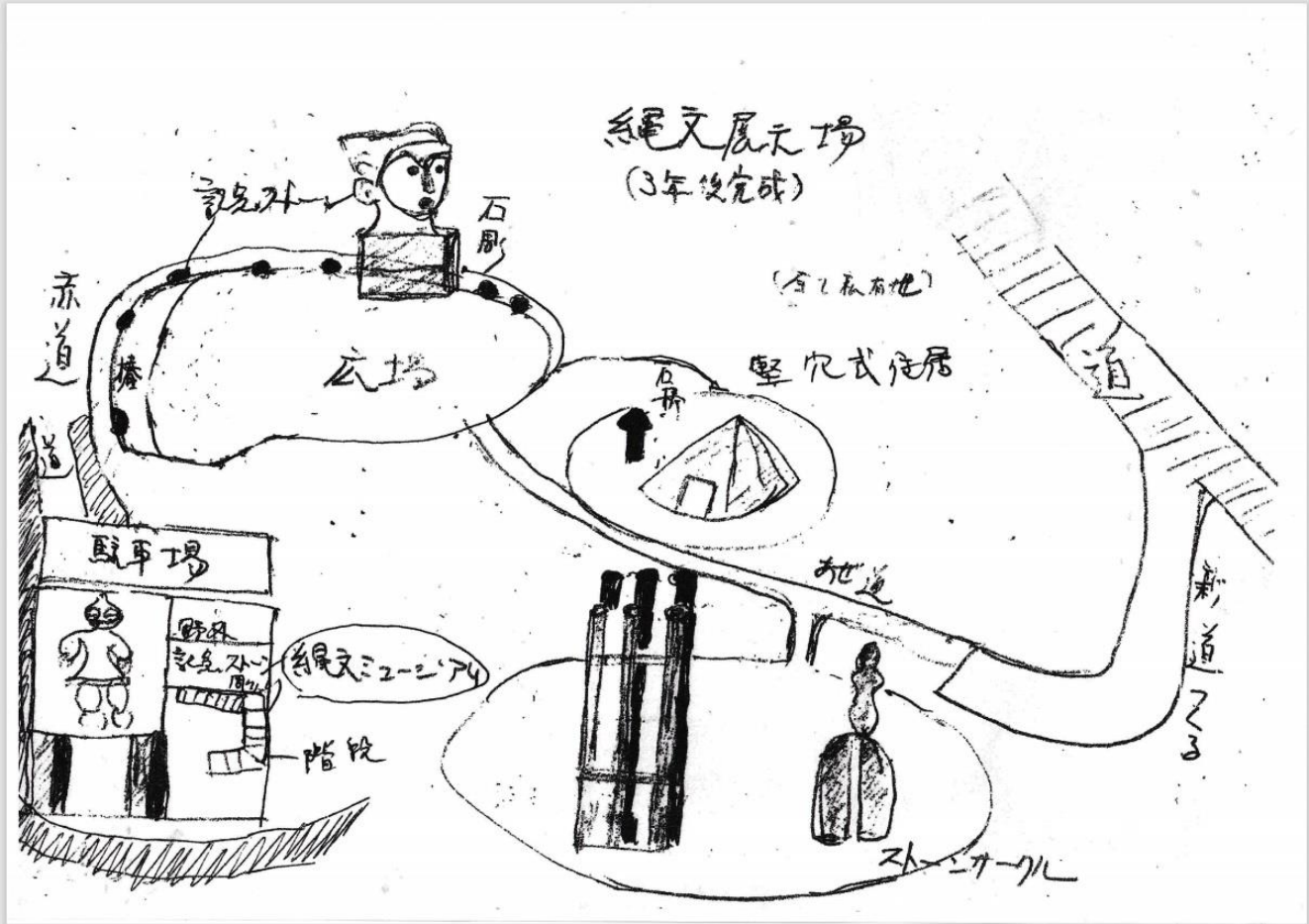
附則

この規則は、令和 3 年 5 月 30 日から施行する。

第６号議案

「縄文村づくり」構想について

「縄文村」の建設構想については、別紙イメージ図のように構想している。建設期間として３か年を見込んでいる壮大な計画であり、当法人だけで設置運営するには課題も多いので、関係団体などと協議等をして役割を明確にしながら実現に向けて着実に取組みたい。



（イメージ図　添付）

第3回
奥阿賀国際
アートフェスタ
記録集
INTERNATIONAL ART FESTA
世界の若人と
日本文化を考える
縄文文化を見つめる
アートの意義
会期
プレ開催
2021.4.10土▶5.29土
レギュラー開催
2021.5.30日▶6.27日
公益財団法人
新潟県文化振興財団助成事業

第3回 奥阿賀国際アートフェスタ 概要

会期

【プレ開催】
2021年4月10日(土)～5月29日(土)
「ストーンサークル」・「作品」つくり見学可(休止日あり)

【レギュラー開催】
2021年5月30日(日)～6月27日(日)

【オープニングセレモニー】
2021年5月30日(日)10:00～11:00
「ストーンサークル」会場(狐窪)にて

会場

【ストーンサークル会場】
阿賀町豊実狐窪
※縄文ミュージアム見学可〔有料300円〕
予約・お問い合わせ TEL.0254-96-2003

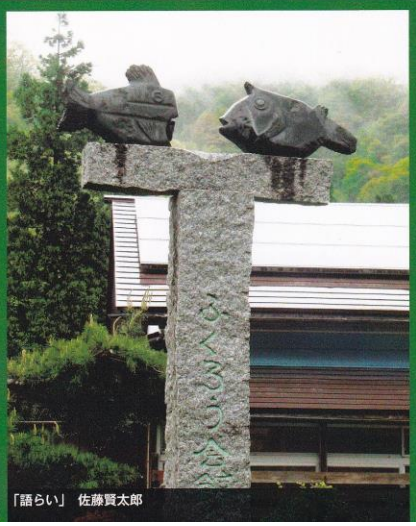
【いのちの田圃会場】
阿賀町豊実下野(里山アート展会場)

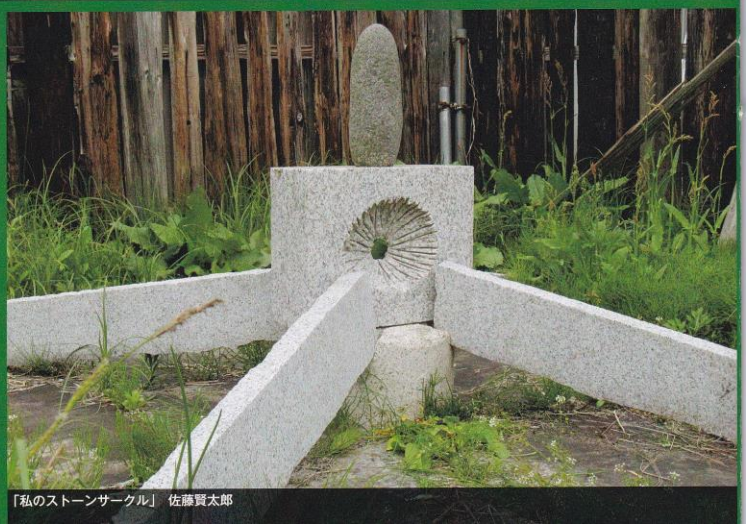
第3回 奥阿賀国際アートフェスタ 【作品一覧】

「方位」 佐藤賢太郎

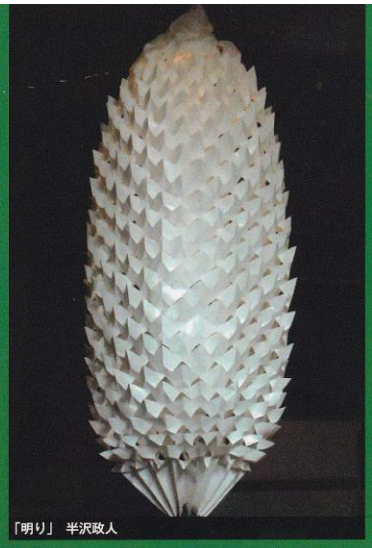
「両親」 佐藤賢太郎

「星降る夜」 佐藤賢太郎

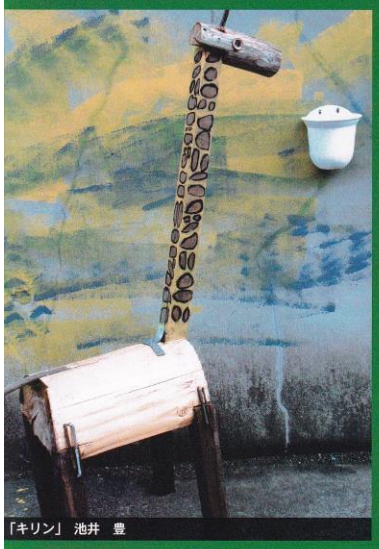

「語らい」 佐藤賢太郎


「私のストーンサークル」 佐藤賢太郎

「阿賀町」 Ntsha



「明り」 半沢政人



「キリン」 池井　豊

「ひっかき2」 桐山士郎

「時は刻む」 小宮和巳

「アオモリの土偶」 土田知史

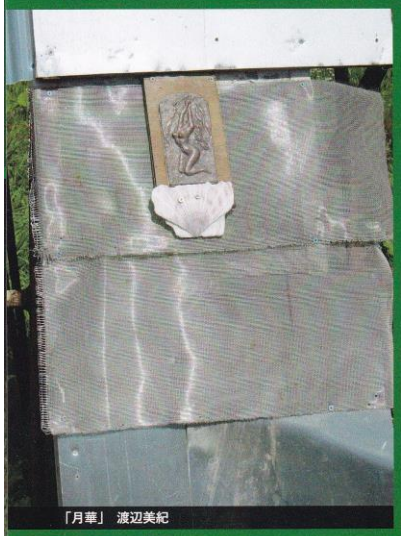
「シャドウ」 Elvar

OKUAGA INTERNATIONAL ART FESTA

「ヤシキジマ1」 佐藤賢太郎

「ヤシキジマ2」 佐藤賢太郎

「縄文人」 乙川千香


「月華」 渡辺美紀

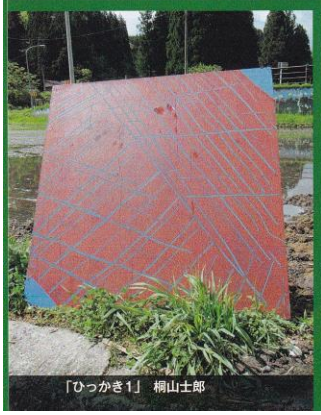
「花火」 増賀睦朗

「立つ」 土田知史

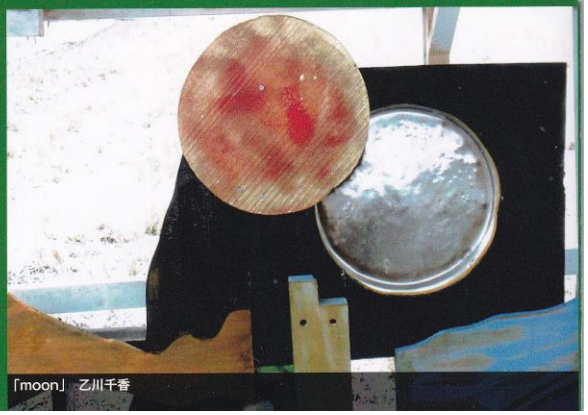
「ほたるの見える窓」 乙川千香

「船頭小唄」 大塚秀夫

「フクロウ」 ジョセッペ

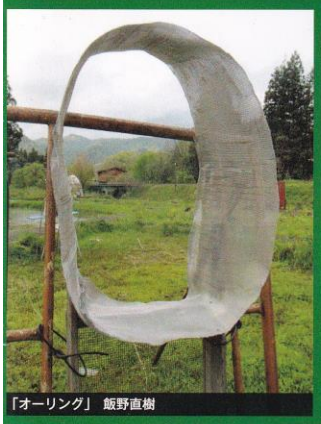

「ひっかき1」 桐山士郎

「オモイデ」 吉田浅吉

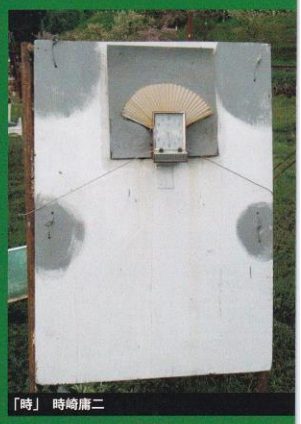

「moon」 乙川千香

「rafu」 大塚秀夫

「踊る縄文人」 御沓一敏


「オーリング」 飯野直樹

「壁」 清水 伸・田沢 孝


「時」 時崎庸二

「柱」 佐藤賢太郎

「宇宙」 森 紘一

OKUAGA INTERNATIONAL ART FESTA

アートフェスタの進化
佐藤賢太郎

今回で奥阿賀アートフェスタが3回目になる。第1回目は国道459線にうっそうとした杉林がある。このフェスタにより杉林が美しくなった。第2回目は地目林田んぼであるが、現在原野になっている。それを道路つくり、間伐して、以来足を痛めてしまった。しかし、本年第3回目は会場として、里山アート展も見える、高台にある30年前から水の来ない田んぼにストーンサークルを造ろうと決めた。

というのも、新聞を整理している時、縄文の小林達雄先生の記事が掲載されていた。そして終わりに私の名前も掲載されてあった。

いずれも今、使われていない杉林や田んぼである。今回、私はそこをアート会場に選んだ。杉林を皆伐し、忙しい方にはヘリコプターでもこれるところにした。地目変更に法務局に3度、農業委員会に3回出向いた。また周囲の地権者の同意を取り付けた。そんな折り、太陽パネルを下さる方が現れた。私は当然これを使います。アートミュージアムは太陽パネルのみ電源として使うことにしました。そして太陽パネルの設置は完成した。これで作品スポットはすべて太陽光パネルにより賄えることになった。過疎化へ顕著に進む地域にアートを核に置いた、縄文野外展を開催することにした。里山アート展は進化してアートフェスタとなり、それが過疎の地域活性化や外国との交流になると思う。そしてコロナ禍の時、真に豊かさを考える機会となるだろう。大変嬉しいことに縄文の小林達雄先生から、また加藤春一様から励ましのお言葉をいただきました。またEU・ジャパンフェスト日本委員会様から熱い声援をいただいています。

佐藤賢太郎氏とNPO法人コスモ夢舞台の作品について
池井　豊（クラフト・コミュニティ・ライフ・デザイナー）

2020年夏、佐藤賢太郎氏にNPO法人まちづくり学校が行っている「地域づくりコーディネーター養成講座オンライン版」の講師を依頼する為に久々に豊実を訪れました。何度か訪れているうちに空家に壁画を描く事になり、里山アート展にクラフト作品も展示することになりました。

何度も豊実を訪れ賢太郎さんと話しているうちに、佐藤賢太郎なる人物は単なる石彫刻家ではなく、「あらゆる作品を創っている」「すべてが作品である」事に気づきました。石舞台、和彩館、ふくろう会館、石夢工房、蔵・銀河、悠悠亭、リホームされたゲストハウスなどすべてが作品です。特に素晴らしいと思っているのは「桃源の湯」建物の骨組みと浴室に絵が飾ってあるところです。また、滔滔亭の窓から見える借景は水墨画のように美しいです。

マキ子さんが作る料理や蕎麦も有る意味作品であり、水音ですら音楽のように聞こえてきます。

そうです地域全体が佐藤賢太郎とコスモ夢舞台の作り上げた作品になっているのです。そして、ここを行き交う人たちを「交流させ」「乗らせ」「やらせる」そして「また来させる」その協働作業が作品そのものです。

佐藤賢太郎氏は彫刻家であり、地域づくりのプロデューサーなのです。これから何を作り出すのかが楽しみです。

― 夢をつなげて ―

NPO法人和歌山芸術文化支援協会　井上節子

2月初め、「井上さん、元気？」と佐藤賢太郎さんから「第3回奥阿賀・国際アートフェスタ」冊子への原稿依頼があった。包みこむような優しい声、まっすぐな口調で今回のアートフェスタ企画の着想、ストーンサークルへの意気込みを熱く語ってくれた。いつもながら、距離や時間を越えて昨日の話の続きのように話が弾み、元気、勇気を貰う。

昨年から続くコロナ禍、期待されるワクチン接種のニュースに相反し、未だ感染者数増大で医療現場の逼迫状況が心配されている。そんな中、福島で震度6強の地震のニュースに続き、この和歌山でも震度4の地震が起こった。あの大災害からもうすぐ10年、賢太郎さんとの出会いからこれまでのことが走馬灯のように思い出される。

NPO法人和歌山芸術文化支援協会(wacss)設立から3年目の春、2004年春欧州文化首都が取り組んだ写真プロジェクト「日本に向けられたヨーロッパ人の眼vol6」で和歌山県が撮影地になりヨーロッパの写真家と和歌山市民と繋げるためのワークショップ開催協力依頼をEUジャパンフェスト日本委員会事務局長古木さんから受け、はじめてのヨーロッパへの旅を大胆にも引き受けた。この素晴らしい体験がこれまでの活動の原動力になっている。地域文化活動を取り上げ支援していただいたEUジャパンフェスト日本委員会の紹介で国内外のたくさんの夢追い人との出会いが生まれた。2005年、賢太郎さんとの出会いもその中の宝物のひとつだ。「いらっしゃい、佐藤賢太郎です」優しい声、チャーミングな笑顔で迎えてくれた賢太郎さんに昔から知っていたような懐かしさを覚えた。その出会いから、2007年7月「エレルヘイン少女合唱団」、2011年11月「ヤン・デプレーテル ギターコンサート」、2012年10月第9回里山アート展」とつながり、信頼と友情は今に続いている。

2011年3月11日、未曾有の大惨害東日本大震災。EUジャパンフェスト日本委員会が「私たちは非力だが無力ではない、出来ることを」、賢太郎さんは「出来る事を出来るちからで」と“ガンバレ東北”をスローガンに奥会津書房の遠藤さんたちと連携しながら支援活動が始まった。同年11月、福島の西隆寺でのコンサート「鎮魂と祈り」でEUジャパンフェスト日本委員会の古木さん、奥会津書房の遠藤由美子さん、賢太郎さんに感動の再会が出来た。祈りの調べは、村人たちと救援活動をともにした仲間の心をひとつにつなげた。翌日、賢太郎さんのトラックで郡山の駅までの途中、久しぶりの豊実に立ち寄り、賢太郎さんの夢が続いている里山アート展を見ながら地域を超えた交流事業をしようと語り合った。

翌年2012年10月12日、その夢が実現した。復興支援プログラムとして現代美術作家・林憲昭さんと協働でスタートした日光写真画ワークショップ「げんき海(かい)プロジェクト」。日光写真(サイノアタイプ)の技術を利用し、大きな布に海をイメージして足形や人形、石、植物など元気な和歌山の海を焼き付けた子どもたちの制作した日光写真画8枚(1.1m×5m)を「第9回里山アート展」に展示する為、林さん一家と日本海沿いを新潟豊実に向け和歌山から780キロ走った。

豊実に住むこと自体が賢太郎さんのアイデンティティであり、現代人にはない素朴さと安心感を持つ彼の人間性、自然を畏敬し共存しながら生きる遠い記憶の彼方から受け継がれて来た縄文文化が、今回のストーンサークルの構想に繋がっているのだと思う。

真の豊かさを問い続ける賢太郎さんは、昨年から続くコロナ禍の今だからこそこの構想に着手するのだと強く感じている。

物が溢れ、毎日の生活に追われる現代人。多発する災害、疫病の蔓延、今の生活を根底から崩すことに直面する時にこそ「幸せとはなんだろう」とこのアートフェスタが人間の本質に問いかけることになるだろう。

芸術は生きている幸せを願う本質的な欲求であり、文化はものの見方や感じ方、人間関係のかたちである。アートを通した楽しい体験からコミュニケーションが生まれ、そこから創造力が育つ。アートは人と町をつなげ、元気にする。「第3回奥阿賀・国際アートフェスタ」ストーンサークルの周りで、多くの出会いと感動が生まれ、新たなつながりが広がることを確信している。

まっすぐな気持ちで夢を追い続ける大きな背中をこれからも応援していきたいと思っている。

Photo

Natsha Nandabhiwait

Last month, I received an invitation to take photos to help promote Aga-machi, a small Japanese countryside area in Niigata prefecture.

Aga-machi's town area is relatively small while the rest comprises of smaller villages on the town's outskirts. Here people live side by side with nature, and it is not uncommon to encounter wildlife such as monkeys, wild boars or even bears.

The four days spent in Aga-machi were very relaxing. It was not only a chance for me to spend time in the calm countryside, but it was also a chance for me to enjoy food made from locally grown ingredients. Niigata prefecture is especially famous for its rice.

Unlike your usual touristy places in Japan, Aga-machi is much more authentic. There weren't any specific photography spots for tourists; it was up to you to explore and find your own special place. When the rain falls, and mist veils over the mountains, Aga-machi can look truly mysterious and enchanting.

However, what I found most endearing to Aga-machi was the kindness of its people. While I can speak some Japanese, I sometimes struggle to find the right words. But that was never a problem because people in Aga-machi were always accommodating.

At one point, I was invited into an old Japanese house. The owner was so kind that she ended up giving me so many snacks and fruits when I was leaving, so much so that I didn't have to stop by a souvenir store before leaving Aga-machi.

Those photos are only parts of my Aga-machi trip. I hope that you can get an idea of Aga-machi through them. Maybe one day you will also get a chance to visit Aga-machi.

興阿賀国際 アートフェスタ 案内マップ

● 主　催：NPO法人 コスモ夢舞台

公益財団法人
新潟県文化振興財団助成事業

《後　援》

新潟県新潟地域振興局／阿賀町／阿賀町観光協会／新潟日報社
NHK新潟放送局／BSN新潟放送／NST新潟総合テレビ
TeNYテレビ新潟／UX新潟テレビ21／EU・ジャパンフェスト日本委員会

《協　賛》

共和写真(株)／古澤屋／下越酒造(株)／絵かきの宿 福泉／(有)江花商会／麒麟山酒造(株)
(株)博進堂／(株)巴山組／西興産(株)／いとう屋／ホテル角神／澤野広吉商店／(有)大清建設
リサイクル入倉／(有)斉明エンジニアリング／実野屋／田部鉄工エンジニアリング(株)

● 発　行：2021年5月30日
● 発行人：佐藤賢太郎
● 発行所：NPO法人 コスモ夢舞台
〒959-4304 新潟県東蒲原郡阿賀町豊実乙1036　TEL/FAX0254-96-2003
● 印　刷：株式会社博進堂

http://www.cosmoyume.net/